生　食　モ　モ

川中島白桃	発芽	展葉	開花始	満開	落花	硬核期(満開50~75日)	収穫盛
	3.20	4.17	4.17	4.23	5.1	6.中～7.上	8.28

平年値（東根市羽入）北村山農業技術普及課調査

散布時期	適用病害虫名	散布薬剤名及び散布濃度（薬液100ℓ当たり）		農薬使用基準 収穫前使用時期	農薬使用基準 総使用回数	10a当たり散布量	注意事項（収穫前日数　総使用回数）を表す	散布日（月／日）	使用薬剤	使用濃度
発芽前まで（3月中旬）	カイガラムシ類 モモアカアブラムシ 縮葉病 せん孔細菌病 越冬病害虫	水 1．ハーベストオイル 2．トレノックスフロアブル 3．アプロードフロアブル 又は、 石灰硫黄合剤	（98ℓ） （石灰硫黄合剤を使う場合50倍） 50倍（2ℓ） 500倍(200cc) 1,000倍(100cc) 10倍(10ℓ)	 発芽前 7日前まで 14日前まで 発芽前	 － 5回以内 3回以内 －	300ℓ	1．縮葉病防除の最も重要な時期なので、発芽前に遅れないように必ず散布する。散布ムラのため発病することが多いので枝先までむらなく散布する。 2．トレノックスフロアブルに替えて、オキシンドー水和剤80 1,000倍（発芽前～開花直前まで、5回以内）でもよい。	／		
開花前	ナシヒメシンクイ	ナシヒメコン	10a当り100本を設置				未結実園地にも設置する。詳細は2ページを参照			
開花直前（4月中旬）	せん孔細菌病	1．アビオン－E（展着剤） 2．ICボルドー412	2,000倍(50cc) 30倍(3.3kg)	－ －	－ －	300ℓ	1．せん孔細菌病対策として開花直前に必ず散布する。 2．ICボルドー412に替えてクプロシールド 1,000倍でもよい。	／		
	せん孔細菌病対策についてはp13の果樹の耕種的・物理的防除技術一覧を参照する。									
落花直後（4月下～5月上旬）	灰星病、うどんこ病 せん孔細菌病 モモハモグリガ ハマキムシ類、シンクイムシ類	1．オンリーワンフロアブル 2．マイコシールド 3．サムコルフロアブル10	2,000倍(50cc) 2,000倍(50g) 5,000倍(20cc)	前日まで 21日前まで 前日まで	3回以内 5回以内 2回以内	300ℓ	1．他樹種へ飛散させない。 2．耐性菌出現防止のため、抗生物質の連用は避ける。	／		
	この回以降の散布は殺虫剤解禁後とする									
5月中旬	灰星病 せん孔細菌病 モモハモグリガ カメムシ類 （うどんこ病）	1．デランフロアブル 2．モスピラン顆粒水溶剤	600倍(166.6cc) 2,000倍(50g)	7日前まで 前日まで	4回以内 3回以内	300ℓ	1．うどんこ病の発生が心配される場合、コナケシ顆粒水溶剤4,000倍（前日まで、2回以内）を加用する。	／		
状況 5月中～下旬	コスカシバ	スカシバコンL	10a当たり40～100本を設置				広域的に設置する。 詳細は2ページを参照	／		
5月下旬	せん孔細菌病 黒星病 アブラムシ類 シンクイムシ類 カイガラムシ類	1．ベンコゼブ水和剤 2．ダイアジノン水和剤34 3．モベントフロアブル 4．（バイカルティ）※2	600倍(166.6g) 1,000倍(100g) 2,000倍(50cc) 1,000倍(100g)	21日前まで 前日まで 7日前まで －	3回以内 4回以内 3回以内 －	300ℓ	1．**モモハモグリガの発生がみられる園地では、ダイアジノン水和剤34に替えてデミリンボ水和剤2,000倍（7日前まで、3回以内）を散布する。ただし、おうとうへの飛散に注意する。** 2．デランフロアブルはラ・フランスの登録が1,000倍なので飛散に注意する。果実に汚れが出る場合があるので乾きやすい時間帯に散布する。又、アプローチBIなどの浸達性展着剤を加用すると薬害が発生する場合があるので加用しない。 3．心折れ（ナシヒメシンクイ）の被害は見つけ次第除去し処分する。 4．おうとうの収穫が終わるまで飛散させない。 5．殺ダニ剤は3～4日前に草刈りをしてから使用する。	／		
6月上旬	灰星病・黒星病 せん孔細菌病 モモハモグリガ シンクイムシ類	1．トレノックスフロアブル 2．マイコシールド 3．スカウトフロアブル※1 4．（バイカルティ）※2	500倍(200cc) 2,000倍(50g) 2,000倍(50cc) 1,000倍(100g)	7日前まで 21日前まで 前日まで －	5回以内 5回以内 5回以内 －	400ℓ		／		
6月中旬	黒星病　灰星病 せん孔細菌病 シンクイムシ類 モモハモグリガ アブラムシ類 ハダニ類	1．デランフロアブル 2．スタークル顆粒水溶剤 3．ダニオーテフロアブル 4．（バイカルティ）※2	600倍(166.6cc) 2,000倍(50g) 2,000倍(50cc) 1,000倍(100g)	7日前まで 前日まで 前日まで －	4回以内 3回以内 1回 －	400ℓ		／		
6月下旬	せん孔細菌病 灰星病　黒星病 シンクイムシ類 モモハモグリガ	1．デランフロアブル 2．エクシレルSE 3．（バイカルティ）※2	600倍(166.6cc) 5,000倍(20cc) 1,000倍(100g)	7日前まで 前日まで －	4回以内 3回以内 －	400ℓ		／		
7月上旬	灰星病 黒星病 せん孔細菌病 シンクイムシ類 アブラムシ類	1．トレノックスフロアブル 2．ダイアジノン水和剤34 3．（バイカルティ）※2	500倍(200cc) 1,000倍(100g) 1,000倍(100g)	7日前まで 前日まで －	5回以内 4回以内 －	400ℓ		／		
7月中旬	灰星病 せん孔細菌病 アブラムシ類 シンクイムシ類 モモハモグリガ カイガラムシ類	1．ベランティーフロアブル 2．バリダシン液剤5 3．モスピラン顆粒水溶剤 4．（バイカルティ）※2	8,000倍(12.5cc) 500倍(200cc) 2,000倍(50g) 1,000倍(100g)	前日まで 7日前まで 前日まで －	3回以内 4回以内 3回以内 －	400ℓ	1．ハダニのみられる園はコロマイト乳剤1,000倍（7日前まで、1回）を散布する。ただし、収穫前日数に注意する。	／		
状況 7月下旬	ナシヒメシンクイ	ナシヒメコン	10a当り50本を設置				1．高温で推移した年で晩生種を栽培している園では、追加設置する			
7月下旬～8月上旬	灰星病 ホモプシス腐敗病 シンクイムシ類 カメムシ類 ハダニ類	1．ベルクートフロアブル 2．テルスターフロアブル※1 3．マイトコーネフロアブル 4．（バイカルティ）※2	1,500倍(66.6cc) 3,000倍(33.3cc) 1,000倍(100cc) 1,000倍(100g)	前日まで 前日まで 前日まで －	3回以内 2回以内 1回 －	400ℓ	1．ベルクートフロアブルは、缶桃種、ル レクチェに薬害のおそれがあるので、パレード15フロアブル2,000倍（前日まで、2回以内）に替えて使用する。 2．カイガラムシの見られる園ではコルト顆粒水和剤2,000倍前日まで、3回以内）を単用散布する。ただしルレクチェの果実に薬害を生ずることがあるので飛散させない。	／		
8月中旬	灰星病、炭そ病 ホモプシス腐敗病 シンクイムシ類 アブラムシ類 モモハモグリガ （ナミハダニ）	1．オンリーワンフロアブル 2．バリアード顆粒水和剤 3．（バイカルティ）※2	2,000倍(50cc) 2,000倍(50g) 1,000倍(100g)	前日まで 前日まで －	3回以内 3回以内 －	400ℓ	1．ナミハダニのみられる園はコテツフロアブル2,000倍（前日まで、2回）を加用する。	／		
8月下旬	灰星病、炭そ病 黒星病 ホモプシス腐敗病 モモハモグリガ ハマキムシ類、シンクイムシ類	1．ナリアWDG 2．ヨーバルフロアブル 3．（バイカルティ）※2	2,000倍(50g) 5,000倍(20cc) 1,000倍(100g)	前日まで 前日まで －	2回以内 2回以内 －	400ℓ	1．ナリアWDGはル レクチエの果実や、ピオーネの葉に薬害を生ずることがあるので飛散させない。 2．収穫前に除袋する品種は、除袋直後に防除を行う。	／		
9月上旬	灰星病 シンクイムシ類 モモハモグリガ・アブラムシ類	1．パレード15フロアブル 2．スカウトフロアブル※1 3．（バイカルティ）※2	2,000倍(50cc) 2,000倍(50cc) 1,000倍(100g)	前日まで 前日まで －	2回以内 5回以内 －	400ℓ		／		
9月中旬（晩生種のみ）	灰星病、炭そ病 シンクイムシ類 モモハモグリガ	1．ナリアWDG 2．ディアナWDG 3．（バイカルティ）※2	2,000倍(50g) 10,000倍(10g) 1,000倍(100g)	前日まで 前日まで －	2回以内 2回以内 －	400ℓ		／		
収穫直後	せん孔細菌病 モモハモグリガ ナシヒメシンクイ	1．アビオン－E（展着剤） 2．ICボルドー412 3．スミチオン乳剤	2,000倍(50cc) 30倍(3.3kg) 1,000倍(100cc)	－ － 3日前まで	－ － 6回以内	400ℓ	1．**多品種により散布ができない場合、収穫した樹にできるだけ早く手散布にて対応する。** 2．**次年度のせん孔細菌病対策としてICボルドー412は2週間間隔で必ず3回以上散布する。**スミチオン乳剤を加用後、直ちに散布する。隣接する作物に付着すると汚れるので注意する。	／		
中生りんご 西洋なし 果実 袋 (収穫後)	せん孔細菌病 シンクイムシ類 モモハモグリガ	1．ICボルドー412 2．ダントツ水溶剤	30倍(3.3kg) 2,000倍(50g)	－ 7日前まで	－ 3回以内			／		
前回散布から2週間後	せん孔細菌病	1．アビオン－E（展着剤） 2．ICボルドー412	2,000倍(50cc) 30倍(3.3kg)	－ －	－ －	400ℓ	3．**ICボルドー412に替えて、クプロシールド1,000倍にクレフノン100倍を加用して散布しても良い。**	／		
落葉直前	せん孔細菌病	1．アビオン－E（展着剤） 2．ICボルドー412	2,000倍(50cc) 30倍(3.3kg)	－ －	－ －	400ℓ		／		
状況 休眠期	コスカシバ	1．ガットキラー乳剤	100倍(1ℓ)	休眠期（落葉後～萌芽前）	1回	400ℓ		／		
休眠期	越冬病害虫	1．石灰硫黄合剤	10倍(10ℓ)	発芽前	－	400ℓ	1．越冬病害虫対策と樹体保護の為に散布する。	／		

せん孔細菌病重点防除　灰星病重点防除

せん孔細菌病発生時の対応（抗生物質＝治療効果）

マイコシールド	2,000倍	21日前まで	5回以内
バリダシン液剤5	500倍	7日前まで	4回以内

注）いずれも単用散布、他樹種に飛散させない。抗生物質の連用は避ける。

収穫前使用時期で「前日」とは24時間前である。

※1 合成ピレスロイド剤は蚕毒・魚毒が強いので、桑園・養魚池、河川などの近くでは絶対に使用しない。　※2 バイカルティは、日持ちの向上が期待できる。